

この vol.41

街をおもろくする 100人

100 people who make this town interesting



Nobuhiko Kamata

鎌田 修広

株式会社タフ・ジャパン 代表取締役
藤沢市・辻堂 在住

かまた・のぶひろ

昭和44年3月27日生まれ。神奈川県横浜市鶴見区出身。小5からアルバイトをする恵まれた環境に育ち、大学までサッカーのGKをやりながら、マーケティング業界等さまざまな業種で働く。19歳の時に未成年ながら会社を経営。その後、横浜消防局で18年間勤務し、42歳で現在の会社を設立。2012年8月に『消防筋肉』を出版。現在は、自治体や企業の防災講演や消防学校の体育講師として活動中。

災害に強く、人に優しい街づくりを行っていききたい。

「守る・支える」という気持ち

生まれは横浜市の鶴見区です。幼少の頃は、人前で話すのが苦手な引込み思案な性格でした。その反面、「気は優しく力持ち」というものに憧れを抱いていました。こんな自分を変えたいと思った頃から、小学校の頃は率先して学級委員や体育委員をやったり、中学の時は生徒会長も務めたりと行動を起こすようになりました。小5からサッカーを始め、ゴールキーパーを任されるようになったのですが、その時最後の砦として「守る・支える」という気持ちで、人の命を守る消防士の仕事に繋がったんだと最近思うようになりました。「いい加減な責任感では務まらない。」と強い正義感から、キーパーは15年間続けました。そのことがきっかけかはわかりませんが、今でも人の集団が自分の後ろにいるというのは少し違和感があります(笑)

先駆者としてポジションを確立

サッカーを始めた小5から就職するまでの間で、50種類以上はアルバイトをやっていたと思います。月に100万円以上の収入や、1週間で10個アルバイトを掛け持ちしていたこともあります。家庭が裕福ではなかったのですが、逆に恵まれた環境でもありましたが、自分の経験値を積むということが大きかったように思います。19歳の頃は訪問販売の会社を任せられ、人を雇って育てたり本場に色んな経験をしましたね。日体大を卒業し、民間を経た翌年、横浜市消防局に入局し、故郷である鶴見消防署に配属されました。初めての勤務地が地元からスタートし、消防体育教官という任務も含

め、18年間横浜市消防局で勤務させていただきました。消防士の頃は、防災訓練などの指導を行ったり、楽しく継続できるようなトレーニングを考案したりしました。消防局での18年間は日々勉強で、特に人前に立つて話す、人を指導するという立場で活動できたことは、今の自分に大きく影響しているように思います。いつか起業しようとしていたのですが、42歳の時にタイミン

この仕事だからその楽しみ

グが訪れたんです。東日本大震災が起こる4日前、私は退職届を提出しました。その際、退職理由も合わせて記入したのですが、書き出しているとプライベートのことが、書き出しているのと合わせて20個もあって、書き出した時点で20個もあつた。看護師である妻もその時妊娠していたので、自分を追い込むチャンスです。ちょうど大学を卒業してから20年、ほんとに自分を見つめ直すタイミングが来るんだなと思いました。震災後の活動に従事しながら自分の意志は揺るぎないと確信を持つこともできました。退職した1ヶ月後の妻の誕生日に会社を起したのですが、最初は仕事がない。どうしようかと考えている時、神奈川県消防学校さんから体育講師として招いてもらうことができたんです。知人が声をかけてくださり、その年から仕事ができることになりました。さらに総務省消防庁消防大学校からも講師のオファーがあり、翌年の8月には、絶対に実現したいと思っていた『消防筋肉』という本を出版する機会にも恵まれたのです。教えるにも協力してもらい、独自のトレーニング方法やメンタル強化、人間関係力の構築法などをまとめました。今では国の消防大学校や全国の消防学校でテキストとして使っていた

だいています。この本で学んでくれる教員の子が全国にいて、「消防職団員の体育講師」という日本でもたった一人のポジションを確立できたのはとても幸せなことでした。

「苦労は買ってでもしろ」というように、あまり苦労を苦労だと感じたことはありません。仕事の楽しみは毎日たくさんあるのです。例えば、今年の6月に故郷の鶴見消防署で講演をさせていただいたのですが、最後の質問の時にただ一人だけ手を挙げてくれた女性がいたんです。その方は中学の頃に仲良かった同級生のお母さんで、「のぶ君、立派になったわねえ〜」なんて言われて、驚いたと同時に感動しました。現在は鶴見区役所の全職員500人に防災教育を行っている最中で、大変な難い経験もさせていたれています。私は、1日に一人は名刺交換をするという行動目標を掲げているので、人に会うことも楽しいですね。つい先日、2千枚を超えたのですが、100枚ごとにその時交換した人と一緒に写真を撮ってブログで紹介しています(笑)あと、講義資料の背表紙には自分の手形を押しています。「この手で背中を押します。しっかりと支えます。」という意味を込めて、ずっと続けていることでもあります。

日本の中心、そして藤沢から

私は、今後の活動のテーマとして、「防災&道徳&体育」を融合した国民強靱化を掲げています。今は辻堂に住んでいるので、すでに藤沢・辻堂から全国へ発信中です。現在は日本の中心で「防災! 震が関東防

キャンブ」を行っていますが、これは、全国から知らない人が40人くらい集まって、15時間同じ場所を過ごすというもので、帰宅困難な状況を想定してさまざまな仕掛けを作っています。災害発生時にどう対応していくか、という気づきがあったかということを考えてもらい、帰宅後に3週間かけて行動していくのです。一つのアイディアとして、この街でもそれを行い、人と街を強くしていけたらと思っています。その一環として、「絆プロジェクト」や「藤沢市民まつり」での体操のお兄さんなど、地元ならではの活動にも参加させてもらっています。私の恩師に本田大三郎さんという方がいるのですが、実はサッカー日本代表の本田圭佑さんの大叔父さんなんです。本田さんの指導は厳しく、激しいものでしたが、数えきれないほど多くのことを教わりました。79歳になられた今でも現役バリバリで、「三途の川をカヌーで渡る!」なんて言うてるくらい、生涯現役という言葉が似合うんです。そんな生き方に憧れ、自身を常に磨き続けています。もちろん未来の消防士を育てることも重要ですが、郷土愛溢れる消防団を中核とした地域防災力の向上にも全力を尽くし、災害に強く人に優しい街づくりを行っていくことが大切だと思っています。人材育成が一番難しいことではありますが、一人ひとりの背中を押しながら、強い街、そして強い日本を作っていきたいです。

